

カンパニー ナウ COMPANY 第905回 NOW!

エーアイエス

—医療機関の収益改善、
業務効率向上をサポート

10年ぶりにプラス改定となった2010年度の診療報酬改定。しかし、10年間にわたって引き下げられ続けてきた診療報酬により疲弊している医療機関は多く、いまだ厳しい経営環境が続いている医療界。いかに業務の効率化を図り、収益に結び付けていくかは、医療機関にとって最重要課題となっている。今回紹介する(株)エーアイエスは、医療現場のさまざまな問題点を把握し、業務の効率化と経営の安定を促進するメディカル・ソリューション事業を展開している。

当社は1986年2月に設立。ベンダーから受託し、医療関係のシステム開発を手がけていたが、煩雑な医療事務が診療や経営自体に影響を及ぼしはじめていた10年ほど前、医療機関の経営をサポートすることで社会貢献を目指すべく、独自のソリューションの展開にかじを切った。

当時、医療機関従事者を悩ませていたレセプト点検業務。レセプト請求のためのチェックには、膨大な量のレセプトをすべて印刷し、医師や医事課職員が目視により確認する。こうした人海戦術で徹夜になるなど長時間残業を強いられながらも、記載ミスによる減額査定の特数は一向に減らず、レセプトチェックの精度と効率の向上は経営上の最重要課題となっていた。

当社では、99年に医療業界初となるレセプト点検ソフト「マイティーチェッカーⅡ」を開発、発売。その後も同ソフト開発のバイオニアとしてバージョンアップを進め、「マイティーチェッカーPRO」は当社の主力商品となっている。同商品は、医事会計システムからレセプトデータを受け取り、病名、医薬品、診療行為の適応性をはじめとしたレセプト内容を自動的にチェックするもの。「年間の減額査定額が約6割減少した」「点検担当者の残業時間が約6割減少した」といった導入医療機関の声が示すように、

「医療機関の事務負担軽減や収益改善に貢献していきたい」と語る志賀社長



減額査定防止や点検業務の効率化といった同ソフトの特長により、医療機関の収益改善や業務効率の改善につながっている。大手ベンダーも3～4年前から同ソフトの開発に参入しているが、当社の最大の強みは、ずばり蓄積されたデータベース。毎月更新を行っており新薬情報なども反映されるため、情報の鮮度は群を抜いているという。こうした信頼性の高さから慶應義塾大学病院や京都第二赤十字病院をはじめ、現在9000強の医療機関で導入されている。

「今年は、東京大学医学部附属病院や大阪大学医学部附属病院で既に導入されているが、レセプトチェック以前の段階で、病名と医薬品などの適応性をチェックし、誤入力や誤投与といった医療事故発生リスクを軽減する『マイティーキューブ』の販売に力を入れていきたい。また、それ以外にも、院内の物流管理を支援する『マイティーSPD』など医療経営全般を支援、サポートすることで社会に貢献していきたい」と志賀社長は今後の抱負を熱く語る。

医療機関の経営環境が厳しさを増すなか、医療現場の効率化と経営の安定をサポートする当社の今後の活躍からますます目が離せない。

(取材・文/東京支社情報部 渡辺 雄大)

会社概要

(株) エーアイエス
 企業コード：983781111
 東京都文京区小石川2-23-11、電話03-5800-5911
 志賀哲社長
 設立：1986年2月、資本金：2000万円
 事業内容：医療情報システムのパッケージ商品
 販売、同システムの受託開発
 年収入高：約8億1000万円(2009年12月期)
 従業員：70名
<http://www.tais.co.jp/>